

第31週の発生動向(2005/8/1~2005/8/7)

1. 咽頭結膜熱は、青森保健所管内、上十三保健所管内、むつ保健所管内で引き続き**警報**が出されています。
2. 手足口病は、上十三保健所管内であらたに、五所川原保健所管内で引き続き**警報**が出されています。
3. 伝染性紅斑は、青森保健所管内、むつ保健所管内で引き続き**警報**が出されています。
4. ヘルパンギーナは、八戸保健所管内を除くすべての保健所管内で**警報**が出されています。

第31週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ															0
(60) 咽頭結膜熱	13	1.63	4	0.40	1	0.11	1	0.20	4	0.67	3	0.75	26	0.62	-2
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	0.13	12	1.20	3	0.33							16	0.38	-10
(62) 感染性胃腸炎	13	1.63	7	0.70	2	0.22			9	1.50	4	1.00	35	0.83	-14
(63) 水痘	11	1.38	8	0.80	4	0.44	2	0.40	6	1.00	3	0.75	34	0.81	-37
(64) 手足口病	21	2.63	11	1.10	25	2.78	30	6.00	31	5.17	5	1.25	123	2.93	25
(65) 伝染性紅斑	9	1.13	10	1.00	2	0.22			8	1.33	11	2.75	40	0.95	-2
(66) 突発性発しん	4	0.50	9	0.90	6	0.67	1	0.20	8	1.33	3	0.75	31	0.74	16
(67) 百日咳															0
(68) 風しん															-2
(69) ヘルパンギーナ	70	8.75	45	4.50	18	2.00	33	6.60	37	6.17	27	6.75	230	5.48	29
(70) 麻しん(成人を除く)															0
(71) 流行性耳下腺炎	1	0.13	5	0.50	2	0.22	2	0.40	1	0.17	4	1.00	15	0.36	-18
(73) 急性出血性結膜炎															0
(74) 流行性角結膜炎	3	1.50	1	0.33			2	2.00	1	0.50			7	0.64	1

保健所名	定点数			
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科 基幹
青森	13	8	5	2
弘前	16	10	6	3
八戸	14	9	5	2
五所川原	7	5	2	1
上十三	9	6	3	2
むつ	6	4	2	1
合計	65	42	23	11

■ は警報 ■ は注意報 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (17年計には、今回届出された人数を含む)

- (29) つつが虫病(四類全数把握疾患) 青森保健所管内: 1人 (17年計 12人)
- (56) 破傷風(五類全数把握疾患) 上十三保健所管内: 1人 (17年計 2人)
- (82) マイコプラズマ肺炎(五類基幹定点把握疾患) 八戸保健所管内: 5人 (17年計 81人)

感染症の窓

マイコプラズマ肺炎

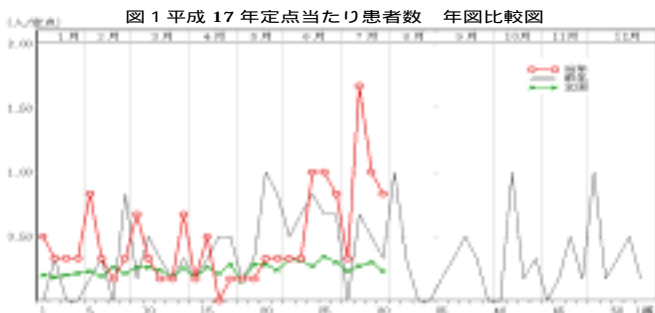


図1 平成17年定点当たり患者数 年図比較図

図2 保健所管内の定点当たりの報告数



青森県でのマイコプラズマ肺炎の定点当たり患者数は、全国を上回った報告が続いています(図1)。また、都道府県別の定点患者報告数(週報 IDWR29 週)は、多い順から宮城県(1.2)、福島県(1.1)、山口県(1.1)に続いて青森県(1.0)となっています。保健所管内の定点当たりの報告数は、八戸保健所管内のみの報告となっています(図2)。

病原体: *Mycoplasma pneumoniae* で、細菌に分類されます。 **感染様式:** 感染患者からの飛沫感染です。 **臨床症状:** 頑固で長期にわたる咳と発熱を主症状として、中耳炎、胸膜炎、心筋炎、髄膜炎などの合併症を併発する症例もあります。

治療: 抗菌薬による化学療法です。 **予防:** 手洗い、うがいなどの励行と患者との濃厚な接触を避けることです。